



写真上：高知県西部の四国カルストに設置されている風力発電所
 下(左)：114年前に開設された「多度津の観測所」
 下(右)：高松市伏石町にある「高松地方気象台」

かろむとウオチング 19

写真・文/石井 誠一

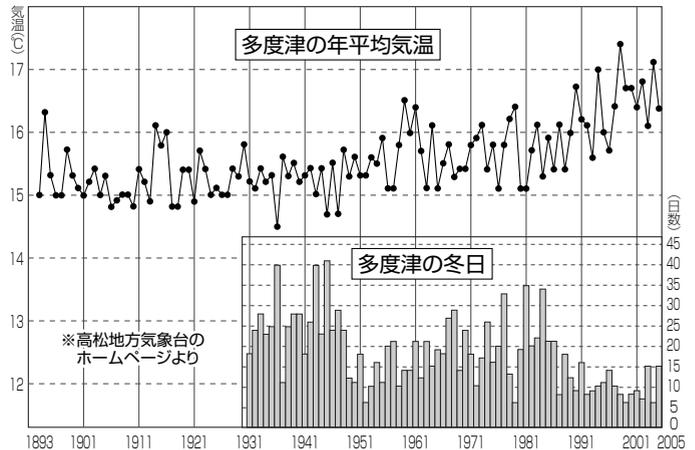
気温の上昇

氷河がとけると 平野は水没!?

「暑さ寒さも彼岸まで」ということわざがある。だが、近年は暑さが十月まで続き、冬服への衣替えが遅くなりつつある。夏服への移行も五月中が多くなった。気象観測所のデータを基に気温の変化を調べてみよう。日本の気象観測は明治十七年から開始されているが、香川県では明治二十五年（一八九二）七月に多度津測候所が観測を開始したのが初めて百年を超えた（高松は昭和十六年九月から）。今では無人となり、庁舎は撤去されたが、「多度津特別地域気象観測所」として観測業務を続けている。丸亀に隣接する多度津の資料を基に「年平均気温の変化」を見ると、二十世紀前半と後半では、明らかに後半、しかも最近二十年間は平均気温の上昇が大きい。最低気温が零度未満の「冬日」の年間日数も近年急速に減少し、積雪や厚い氷の張った光景を見る機会がすっかり減ってしまった。このような気温の上昇は地球的な規模で進み、各種燃料消費の増加と森林の減少により、大気中の二酸化炭素が増加して、

地球表面に温室効果をもたらせるからと考えられている。温暖化により、南極などの氷河が消滅すると海面は五十〜六十センチ上昇し、丸亀の平野部は水没してしまう。生態系も大きく変化し、温帯にも熱帯の風土病の広がりが心配される。二〇〇一年の「京都議定書」に基づき、多くの国々は二酸化炭素の排出抑制に取り組んでいる。自動車エンジンの改良や自然エネルギー（太陽光や風力）による発電が注目を集めている。

温暖化により、南極などの氷河が消滅すると海面は五十〜六十センチ上昇し、丸亀の平野部は水没してしまう。生態系も大きく変化し、温帯にも熱帯の風土病の広がりが心配される。



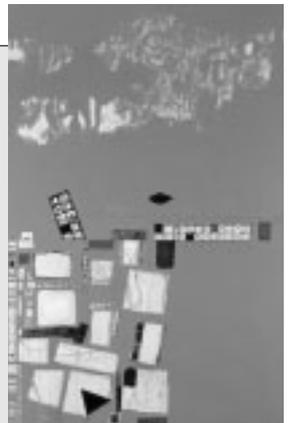
猪熊ギャラリー

宇宙都市休日

1991年作

アクリル・カンヴァス

この作品は、美術館の建築にスケール感を求めた猪熊が、その広々とした空間に合うようにと、先に描いていた下半分の作品に上半分を描き加えたものです。



こちら編集室

静まり返った秋の夜長は虫の音を聞きながら、読書にふけて

みてはいかががですか▽今年も市内の田園地帯に黄金色のジュータンが敷き詰められました。秋の実りに感謝。家族の健康に感謝▽今まで「こちら編集室」をご愛読いただいたみなさんに感謝▽このコーナーは、新たに広告を掲載するため、今月号をもって「完」。(寿)